

講義名	対)基礎経済学			
担当教員	丸山 亜希子			
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
<b>主題と概要</b>				
<p>資金や物価(インフレやデフレ)の問題、あるいは為替レートの話など、日々の新聞やニュースで経済問題が論じられない日はありません。このような経済問題を理解する道具としての経済学の基礎を学びます。</p> <p>具体的には、現在の経済理論における大きな柱であるミクロ経済学とマクロ経済学を取り上げて、その基本部分を講義します。ミクロ経済学では、われわれの経済活動を支えている市場の役割と限界を勉強します。またマクロ経済学では、経済活動の規模を測る指標であるGDPなどに触れます。経済理論は抽象的で、一見すると難しいと感じるでしょうが、できるかぎり現実の具体的な事例に触れながら説明します。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>新聞やニュースで取り上げられている事象に対して、経済学の考え方をを用いると、簡単な予測が立てられるようになります(例えば、政府が行う政策が人々の行動にどのような影響を与えるか、など)。この授業ではそのための基礎知識が習得できるようになります。</p>				
<b>提出課題</b>				
<p>普段(平常時)の課題と、期末試験があります。</p> <p>第1回の授業で詳細をアナウンスします。</p>				
<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b>				
<p>課題を課した次の授業回で、解答・解説を行う予定です。</p>				
<b>評価の基準</b>				
<p>平常時の課題 30点          期末試験 70点          合計100点</p>				
<b>履修にあたっての注意・助言他</b>				
<p>課題は締切り厳守です。期後の提出は未提出扱いとします。</p>				

<b>教科書</b>				
.マンキュー入門経済学(第3版)	N.グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社	3520	978-4492315217
<b>プリント資料及び参考文献</b>				
<p>レジュメと課題等を配布します。</p> <p>参考文献 (興味がある人は読んで下さい。)          安藤 至大 『ミクロ経済学の第一歩(有斐閣ストウディア)』。有斐閣 2200円</p>				
<b>授業計画</b>				
<p>経済学の基礎知識          第1回 経済学の十大原理(教科書1章)          第2回 経済学者らしく考える(2章)</p> <p>ミクロ経済学の基礎知識          第3回 市場における需要と供給の作用(4章)(1)～完全競争市場とは          第4回 市場における需要と供給の作用(4章)(2)～需要          第5回 市場における需要と供給の作用(4章)(3)～供給          第6回 市場における需要と供給の作用(4章)(4)～均衡          第7回 需要、供給、および政府の政策(5章)(1)～価格規制          第8回 需要、供給、および政府の政策(5章)(2)～税金          第9回 消費者、生産者、市場の効率性(6章)          第10回 市場の失敗(7章)          第11回 外部性(7章)</p> <p>マクロ経済学の基礎知識          第12回 国民所得の測定(8章)(1)～GDPとは          第13回 国民所得の測定(8章)(2)～名目GDPと実質GDPを計算してみよう          第14回 生計費の測定(9章)          第15回 生産と成長(10章)</p> <p>皆さんの理解度によって、授業内容が前後する場合があります。</p>				
<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>				
ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク		
オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク		
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)				
<b>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
<p>予習・・・毎回教科書の該当範囲(上記「授業計画」を参照のこと)を読んで、内容を理解する必要があります。(2時間/回)</p> <p>復習・・・毎回配布するレジュメを基に、まとめたノートを作成するなどして、復習してください。(2時間/回)</p>				
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>				
<p>講義内容を十分に理解することで、社会的にみて望ましい、個人の行動、企業の行動、政府の行動を考えることが可能となる。これにより、ディプロマポリシーの「人間、社会に関するこれまでの学問成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題について、幅広い視点から考察し課題を提案することができるようになる」に到達する。</p>				
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				
<p></p>				
<b>実務経験の有無及び活用</b>				
<p></p>				
<b>備考</b>				
<p>一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中での対応とする。</p>				